

資料

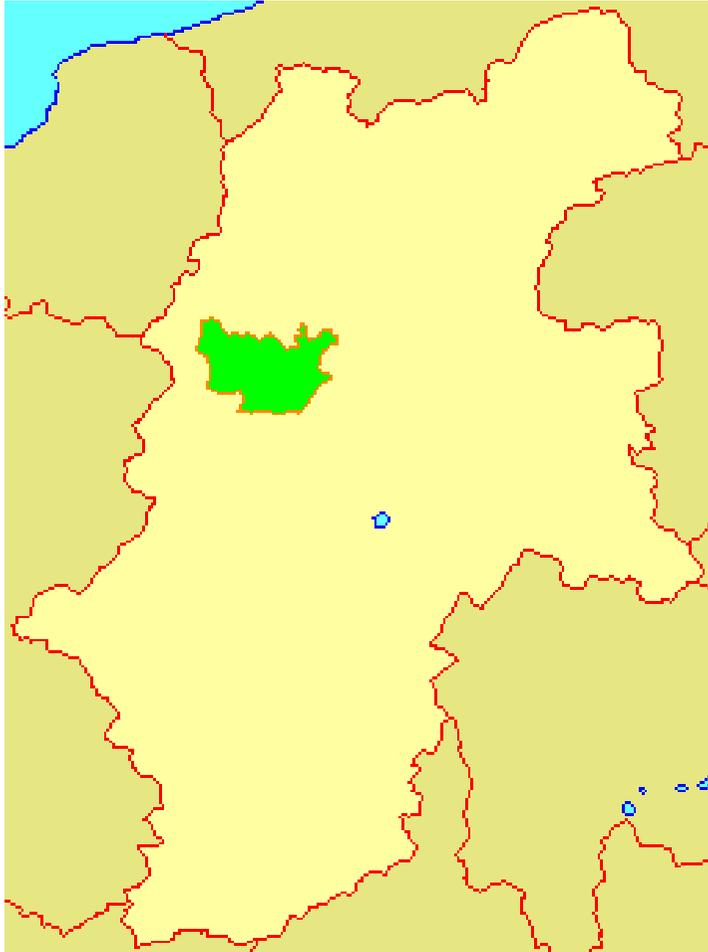
協議体研修会

安曇野市生活支援体制整備事業の取り組み

平成29年7月9日

安曇野市コーディネーター 西澤弘修

安曇野市の高齢化の状況



人口	98,014人
65歳以上人口	29,352人
高齢化率	29.9%

人口：安曇野市住民
基本台帳より
(H29.4.1現在)

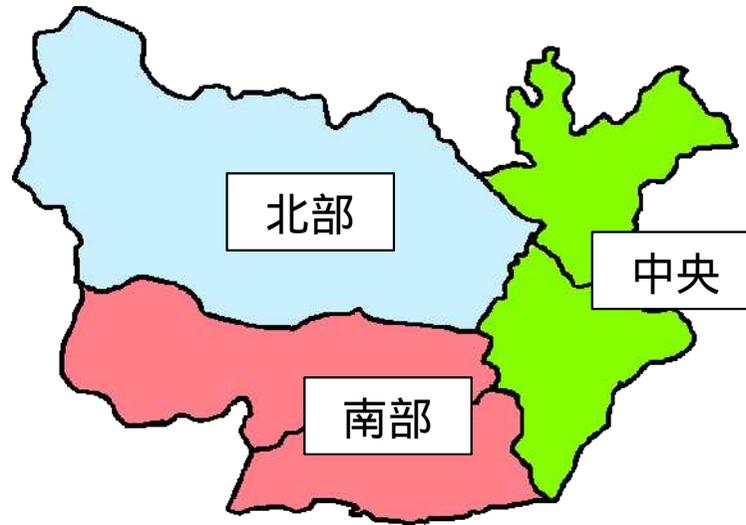
前期高齢者(65歳~74歳)	14,636人(49.9%)
後期高齢者(75歳~)	14,716人(50.1%)

地域別の高齢者の状況

地域包括支援センターの設置

旧町村単位 5 圏域に 3 つの地域包括支援センターが設置

穂高	
人口	33,959人
高齢者人口	10,267人
高齢化率	30.2%



明科	
人口	8,434人
高齢者人口	3,163人
高齢化率	37.5%

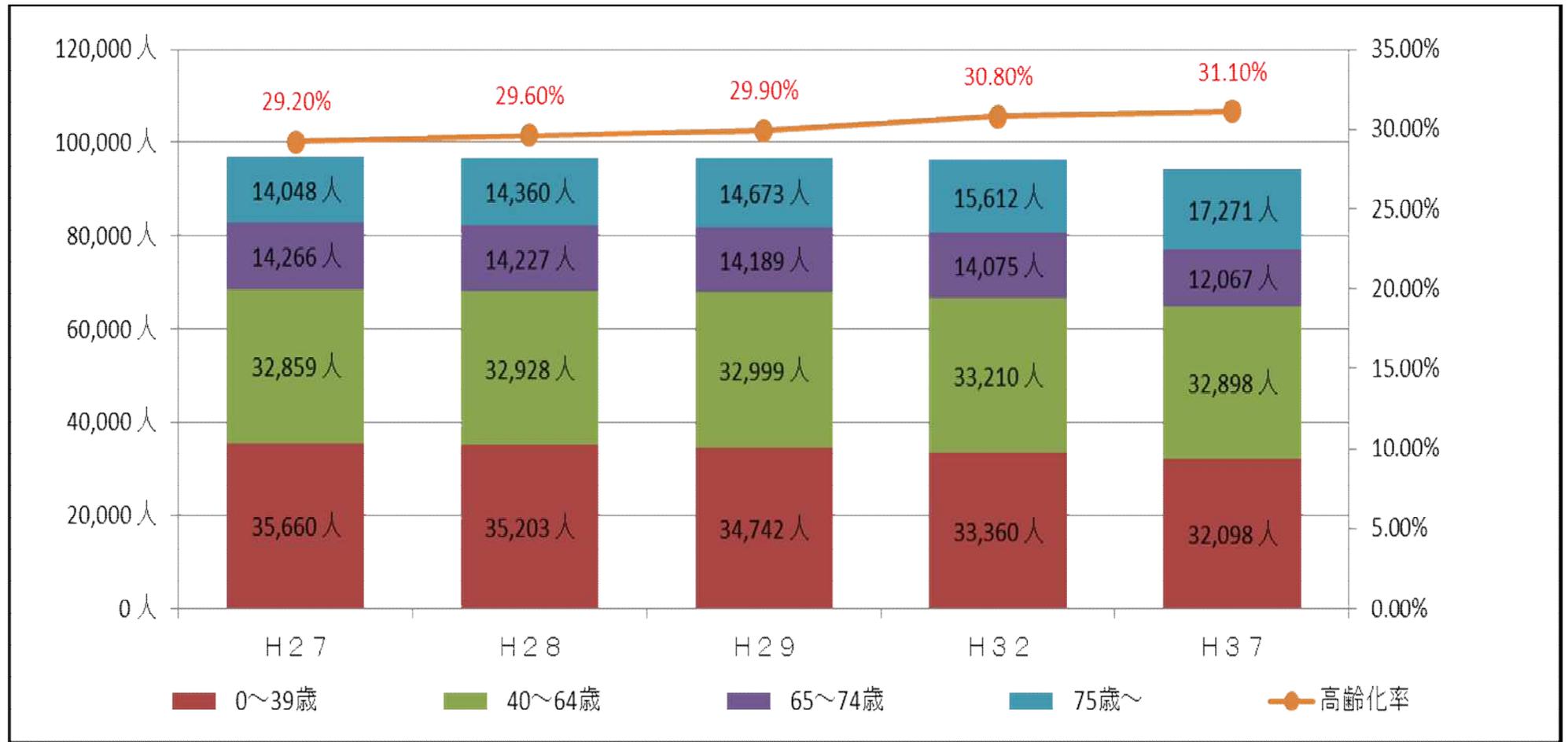
堀金	
人口	9,236人
高齢者人口	2,583人
高齢化率	28.0%

三郷	
人口	18,568人
高齢者人口	5,229人
高齢化率	28.2%

豊科	
人口	27,817人
高齢者人口	8,110人
高齢化率	29.2%

人口：安曇野市住民基本台帳より（H294.1現在）

安曇野市推計人口



地域の支え合い・助け合いを広げる

生活支援や介護予防サービスの提供基盤をすすめるには、地域の中での支え合いや助け合いの意識の醸成をし、推進していく仕組みが不可欠。

「生活支援体制整備事業」

生活支援コーディネーターの配置

生活支援の担い手の養成、サービスの開発
関係者のネットワーク構築
ニーズとサービスのマッチング

協議体の設置

コーディネーターの組織的な補完
地域ニーズの把握、情報の見える化の推進
企画、立案、方針策定を行う場
地域づくりにおける意識の統一を図る場
情報交換の場、働きかけの場



地域の中にある日常の交流から、支え合い・助け合いを見つけ出し、協議体で共有し、意識化していく。

地域の支え合い活動を把握し、活動拡大や支援をともに考え、共有して、組織化に向けた取組をすすめる。

安曇野市生活支援体制整備事業について

生活支援コーディネーターの配置(平成28年4月～)

5地域に生活支援コーディネーターを配置

豊科地域:JAあづみくらしの助け合いネットワークあんしん、
穂高地域、三郷地域、堀金地域、明科地域では、社会福祉協議会

【主な活動】

地域に出向き、支え合い・助け合いの意識を広める
拠点介護予防教室後における支え手の相談支援
協議体の運営 など

協議体の設置(平成28年9月～)

5地域に協議体を設置

構成団体:支部社協、NPO法人、民生児童委員、介護サービス事業者、ボ
ランティア連絡協議会、老人クラブ、シルバー人材センター、生活協同組合、
商工会、包括など

【主な活動】

地域ニーズの把握、地域分析から必要なサービスの
検討
関係団体との情報共有・ネットワークを構築する など

連携

地域の中に入り、支え合い・助け合いを広める地域学習会を開催していく。
総合事業の定着・普及を進め、新たに必要となるサービスの創出につなげる。
協議体活動を広め、参加団体や実践者を増やしていく。

生活支援コーディネーター・協議体の配置・構成のイメージ

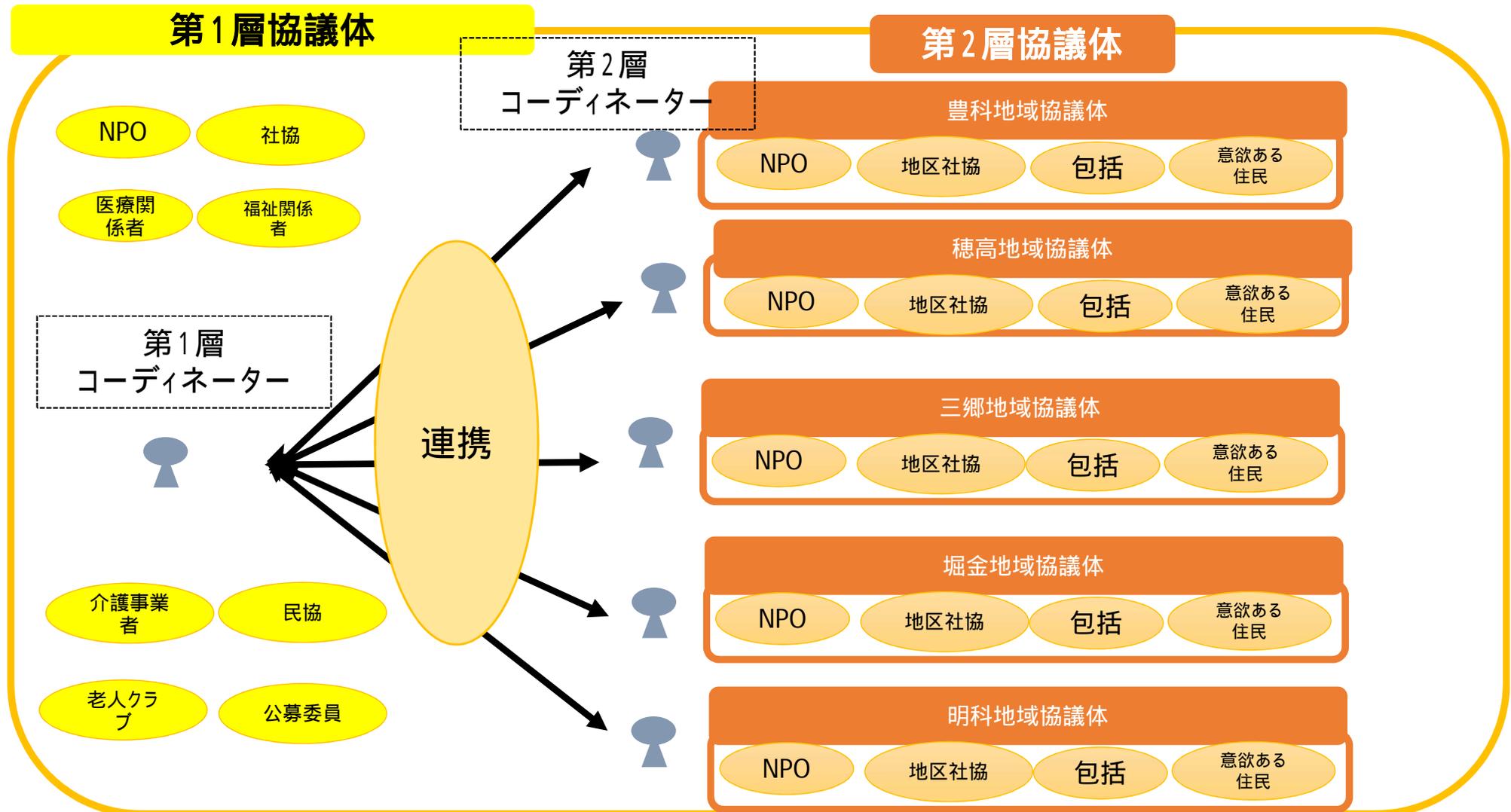
第1層コーディネーター(市職員)を配置し、第1層協議体は「安曇野市介護保険等運営協議会」が兼ねる。

第2層コーディネーターは5地域に配置。

第1層コーディネーターは第2層コーディネーターが円滑な活動が図られるよう、十分に連携し、必要な行政情報等を提供し、連携する。

第2層コーディネーターは地域の実情に応じて、第2層協議体を設置。

第2層協議体については、最低限必要なメンバーで立ち上げをし、徐々にメンバーを増やすこととする。その際、住民主体の活動を広める観点から、地区社協、区長会、ボランティア等地域で活動する地縁組織や意欲ある住民が構成メンバーとして加わるようにする。



生活支援サービスガイドブックについて

平成28年度の活動の中で、地域の資源を明らかにした地域ごとの「生活支援サービスガイドブック」を作成しました。

【主な記載内容】

高齢者の生活を支える情報(配食サービス、配達、家事支援、見守りなど)

高齢者が通う・活動する情報(健康体操、サロン活動、趣味活動など) など



ガイドブックを活用し、人と人とのつながりをつくり、支え合い・助け合いを広げる。

支え合い事業施設整備等補助金

高齢者の皆さんが住み慣れた地域でいつまでも自立した生活を続けられるよう、既存施設等を活用し、認知症カフェ、高齢者サロン、地域支え合い活動などの生活支援サービスの事業を実施する団体に対し、その**施設整備等**の経費の一部を助成します。

補助対象	下記の内容に補助していきます。 <ul style="list-style-type: none">・認知症カフェ(軽度認知障がい及び認知症の高齢者の皆さんが自ら活動し、楽しむことができる場)・高齢者サロン(地域住民のどなたでも気軽に集える場)・高齢者を見守り、配食サービスなど・健康体操教室 など
対象団体	住民組織(区及び隣組に相当する地縁団体組織等) ボランティア団体 NPO法人 社会福祉法人 介護事業者
補助金額	1ヶ所あたり対象経費の2分の1以内、上限50万円 事業実施に必要な経費のうち、次に掲げるもの 備品購入費 工事請負費 なお、補助対象経費と同一の経費に対して、別の補助金や交付金等を重複して受けることはできません。
問い合わせ先	介護保険課介護保険担当(71-2472)

補助金の活用例

備品購入：テーブル、椅子、ヨガマット、電気ポット、ラジカセ、電子ピアノなど
建物改修：キッチン周りの修繕など



認知症カフェ運営事業補助金

認知症カフェの開設を定期的に行っている団体に、**運営資金**の一部を助成します。

認知症カフェの定義	軽度認知障害及び認知症の高齢者等その家族等をはじめ、地域住民並びに専門職の誰もが気軽に集い、認知症状の悪化防止、相互交流及び情報交換を目的として、主体的に参加できる場をいう。
補助対象	下記の内容に補助していきます。 ・市内に住所を有する団体であること。 ・市民を主な利用対象者としていること。 ・認知症カフェを月に1回以上継続的に開設し、1回あたりの開設時間は、2時間以上であること。 対象事業について、市、社会福祉協議会等から補助金の交付を受けていないこと。
対象となる経費	人件費、報償費、印刷製本費、通信運搬費、保険料、使用料及び賃借料、物品購入費
補助金額	1ヶ所あたり対象経費の2分の1以内、年間上限6万円
問い合わせ先	介護保険課介護予防担当(71 - 2474)

健康長寿のまちづくり推進補助金

健康増進や介護予防のために健康づくりの活動を定期的に行う団体に活動費の一部を助成します。

補助対象	下記の内容に補助していきます。 ・健康体操、軽体操、ウォーキング、ヨガ教室等で高齢者の運動機能の向上を目的としたもの。
対象団体	次の条件を満たす団体に補助します。 ・代表者が市内に住所を有していること。 ・60歳以上の市民が8人以上含まれていること。 ・2ヶ月に1回以上の定期的活動実績があること。 ・市から当該団体に加入を希望している市民の受け入れ要請があったときは、原則として受け入れが可能であること。 ・市、社会福祉協議会等から補助金の交付を受けていないこと。
対象経費	講師謝礼 会場使用料
補助金額	1ヶ所あたり、対象経費の2分の1以内、年間上限6万円
問い合わせ先	長寿社会課長寿福祉係(71 - 2254)

協議体活動報告

平成29年7月9日

豊科地域コーディネーター	藤松	寛子	(NPO法人JAあづみくらしの助け合いネットワークあんしん)
穂高地域コーディネーター	片桐	大輔	(安曇野市社会福祉協議会)
三郷地域コーディネーター	中嶋	篤美	(安曇野市社会福祉協議会)
堀金地域コーディネーター	宮下	優奈	(安曇野市社会福祉協議会)
明科地域コーディネーター	小林	啓孝	(安曇野市社会福祉協議会)

豊科地域協議体

協議体の構成メンバー

シルバー人材センター 区長会 NPO法人からだ堂 豊科支部社協
コープながののくらしの助け合いの会 商工会豊科支部 NPO法人縁舎
NPO法人生活支援舎 民生児童委員協議会 ボランティア連絡協議会
老人クラブ連合会 中央包括支援センター 安曇野市社協豊科支所
NPO法人あんしん

14団体

活動の状況

協議体メンバーの活動紹介をして、お互いどんな仕事をしているのか知る。

連携できるところは協力支援していく。

豊科地域の状況を把握するため、23地区の集いの場(体操教室、サロンなど)と生活支援のサービスをワークショップ形式で出しあう。

サービスガイドは生活を支える資源と通い・活動する場所に分け、地区ごとわかりやすく表にした。

他にボランティア団体等も載せて、今後地域のサロンやあんしん広場、集会等で地域の方に話をしていく予定です。

穂高地域協議体

協議体の構成メンバー

社会福祉法人 孝明 孝穂館	安曇野市 老人クラブ連合会 穂高支部
公益社団法人 安曇野シルバー人材センター	穂高支部 社会福祉協議会
NPO法人 なかむら 宅幼老所 なかむら	穂高地区 民生児童委員協議会
NPO法人 JAあづみくらしの助け合いネットワーク あんしん	ボランティア連絡協議会 穂高支部
医療法人 愛友会 居宅介護「アイ・ユーほたか」	安曇野市北部地域包括支援センター
福祉ステーション ひまわり あづみの居宅介護	

11団体

活動の状況

自分の居場所や人との繋がりの中で介護予防が図れる「通いの場」、生活課題に対する「支え合いの仕組み」、日常生活の中で利用できる社会資源等について把握した「穂高地域 生活支援サービスガイドブック」を作成した。

穂高地域の拠点介護予防教室に携わり、教室終了後にOB会の立ち上げを支援。センターを拠点とした通いの団体が一つ増えた。

協議体の委員の一人として、様々な分野から参加されている委員の皆さんと繋がりが持て、地域の資源を把握できるなど、自身の勉強にもなることが非常に嬉しいという感想が聞かれた。

住民が主体的に地域づくりを行っていってもらうことが生活支援体制整備事業の目的であり、そのために協議体が存在することを、毎回会議の冒頭で立ち返って確認してきた。故に作成したガイドブックはあくまでも その一歩。今後 具体的に何を協議体で行っていけばよいかを話し合った結果、次のような作業を現在進めている。

穂高地域の行政区毎の「高齢化率」、「介護保険の認定率」、「区への加入率」を数値化。そのレベルを3段階に分け、それぞれ白地図に落として 色分け作業を行った。

今後更に、社会資源が行政区毎にどれほどあるかについても同様の作業をしていく予定。

これから社協 穂高支所として民生委員さんのご協力をいただいて実施する「高齢者の一人暮らしの方を対象にしたアンケート」について、その結果をまとめたものと、の各種地図を材料に、行政区毎の状況を分析。行政区毎の現況と課題をまとめ、それをもって生活支援COが地域へ赴いて説明会を実施する予定。

三郷地域協議体

協議体の構成メンバー

長幸園 安曇野シルバー人材センター

NPO法人コンプタ・キュリア デイサービス「太田屋」 居宅介護支援事業所「まがりっと」

NPO法人アルウィズ デイホーム「楓」 NPO法人JAあづみくらしの助け合いネットワークあんしん

安曇野市老人クラブ連合会三郷支部 三郷支部社会福祉協議会

三郷地域民生児童委員協議会 安曇野市ボランティア連絡協議会三郷支部

安曇野市南部地域包括支援センター 安曇野市社会福祉協議会 三郷支所

11団体

活動の状況

上記メンバーにて協議体を設置しました。

昨年9月から月1回の会議を行ないメンバー同士の活動について紹介し合い、地域内の事業所を知る一つのきっかけになりました。各事業所の方たちも、地域との交流を大切にしており、地域の行事に参加をされたりと、何か少しでも出来ることを活かして、地域の役に立てればと、試行錯誤されています。このような情報交換がきっかけでメンバーが交代で事業所に伺ったりして横のつながりも少しずつできてきました。また、メンバーがそれぞれ把握している三郷地域内の社会資源やサービスを出し合い、サービスガイドブックとしてまとめました。初めてのガイドブックなので、一番は見やすさにこだわり、皆で何回も見直し作成しました。これからも新しい情報や資源の共有をしながら、協議体の活動をしていきたいと思っています。

堀金地域協議体

協議体の構成メンバー

有限会社宗明会見岳荘 公益社団法人安曇野シルバー人材センター堀金地域担当
NPO法人JAあづみくらし助け合いネットワークあんしん 安曇野市老人クラブ連合会堀金支部
堀金支部社会福祉協議会 安曇野市南部包括支援センター
堀金地域民生児童委員協議会 安曇野市ボランティア連絡協議会堀金支部
堀金公民館 安曇野市身体障害者福祉協会堀金支部 配食ボランティアまめの会
社会福祉法人安曇野市社会福祉協議会

12団体

活動の状況

特徴的な活動、連携によって効果を感じた出来事
地域に目を向けるようになった
地域資源を知る、また再認識することができた
地域の様々な団体(協議体メンバー)の交流ができた
地域住民の意識が高くなった
住民主体で行われる、小地域のサロンが増えた

明科地域協議体

協議体の構成メンバー

特別養護老人ホーム孝明館 安曇野薬剤師会 安曇野シルバー人材センター
明科地区民生児童委員協議会 明科支部社会福祉協議会 安曇野市老人クラブ連合会明科
支部 安曇野市ボランティア連絡協議会明科支部 安曇野市中央地域包括支援センター
NPO法人あんしん 安曇野市社会福祉協議会明科支所

10団体

活動の状況

無理なく集まれるようにと、2ヶ月に1回開催。
主にはガイドブックの作成を行いながら、制度についての理解を深めたり、困り事の共有をしたりしてきた。
(一人暮らし高齢者や高齢者のみの世帯の雪かき、一人暮らし高齢者の見守り、外出時の交通手段、老人クラブの
会員減少、山間地で暮らす高齢者について、など)。

上記の困り事はまだ共有しただけで、解決に向けた取り組みにはなっていないが、明るい話題として、小地域での
自主的なサロンの立ち上げが2件続いた。

ガイドブックの特徴は、本来の目的のほかに居場所や集いの場としても利用できるような場所をピックアップし、地
図におとしたこと。それらの利用が活発になり、そこから困り事の発見や助け合いに発展することも期待。